

平成30年度 第9回 小野申人といきいきトーク

| | |
|-------|---|
| と き | 平成31年2月6日（木） 19時～20時30分 |
| と ころ | 府中市立南小学校 |
| テ ー マ | 子育て・教育、地域づくり、防災 |
| 出席者 | 学校運営協議会委員：14名 小野市長、栗根総務部長、九十九健康福祉部長、 若井建設産業部長、石川教育部長、門田学校教育課長 |

《教育》

CSの取り組みなど

- ・ CS以降、小学生が地域の方とごみを一緒に拾うクリーン作戦を実施している。
- ・ 昔の暮らしでは、本物の洗濯板を使った体験をしたが、この洗濯板については、市の文化財から実物を借り受け、東高校にレプリカを作ってもらうなど、高校も含めて地域が一体となって取り組んでいる。
- ・ 南小学校には、開校時から相撲場がある。全校児童がマワシを付けて相撲をとるのは、南小学校ならではの恒例行事である。しかし、その相撲場は野ざらしのため定期的な整備が必要になる。PTAだけではできなくなってきたので、地域も協力している。
- ・ 仕事をしているので、日中の融通がきかず、なかなか参加できていないが、休日の行事には参加するようにしている。
- ・ 毎日の登下校の見守りについて。保護者は勤務もあり1箇所立っているだけだが、地域の方に一緒に登下校してもらいながら危険箇所の指導などいただいているのは心強く、大変ありがたい。
- ・ 地域の取り組みとして夏休みに「宿題やり遂げ隊」という学習支援を行っている。詳しくは南小HPをご覧いただきたいが、子どもと一緒に学べる場を作っている。学校側からは、アドバイスをもらっている。
- ・ 地域行事にも子どもたちには関わっており、「歩け歩け運動」には元日12時半からの行事に最近では中学生、高校生からの参加もあり、50人弱集まった。
- ・ 地域の人材が授業に入ってきている。たとえば、ミシンでは縫製のプロが使い方の指導などしている。
- ・ 地域や保護者も参加する読書会では、読み聞かせの後にグループで意見を出し合い、それを最後に発表する。大人と子どもで感想が違うので驚かされる。子どもは明日を見ての感想であり、我々は立ち止まった感想であった。お互いに新しい視点を得られている。
- ・ 高齢化が進んでいるなか、サロンに子どもが来てくれるとすごく元気をもらうことができる。そこでは、普段家でしないことをするので、子どももすごく喜んでいる。また、サロンの皆で「学校に行こう」と取り組み、最近では、学校に行くサロンの参加者も増えている。また、子どもが来れば親も来るので、地域が親のことも分かるようになる。
- ・ 学校から気軽に気持ちよく声を掛けてくれるのもありがたい。こうしてCSが少しずつ

つ機能してきていると感じる。ただ、次のメンバーをどうするか。どう次に繋いでいくのかが心配。市民の方への周知をしっかりとしていただきたい。

他のところでも「地域に浸透していない」「保護者にも浸透していない」という意見をもらっている。

市長

- ・ 子どもと何かをするときは、町内会か町社協が持ち出しをしているのが実情。

町内会には大変お世話になっている。

市長

- ・ 相撲場について、建設会社のご厚意と地域、先生により作られた施設だが、老朽化しているため、地域で募金や赤い羽根共同募金の補助制度を利用しながら修繕している。誰のものか分からないものを保護者で維持管理するのは問題があり、責任が不明な状態は好ましくないと感じる。

こういった事例は他の学校でもあるのではないか。学校敷地内なので市が責任を持つべきと考える。

よく調べてから対応を考える。

市長

《地域づくり》

- ・ 南小の児童は現在約120人。どんどん減ってきており、この先が心配である。120人というのは教育をするうえでは魅力的な数字。地域も目が届く人数ではある。ただし、これが半減すると活力の面で問題が出てくる。

児童数は、平成16年206人、平成26年155人、平成30年120人と推移してきており、一気に減ることはないが、減少していくことは確実。これは府中に限ったことではなく、全国で起こっている。

部長

- ・ 子どもが減っていったとき、市の予算も併せて減っていくのではなく、「支援する」という形で考えてほしい。
- ・ 子どもの貧困について、外とのつながりをシャットアウトされると僕たちも気づけない。地域の方たちと協力して、子供の変化に気づき、しんどい思いをしている子供を救ってあげられればいいと思う。

他の学区でもネグレクトやDVの話がでてくる。個人情報があり、みんなで情報を共有がすることが難しいが、地域として子どもを見守っていくのも一つの方法と思う。

市長

《子育て》

- ・ 府中市ではお産するところがなく、夜間の小児科もない。東京から娘がお産のため帰ってきたが、福山で出産し、夜間の病院も福山に行った。東京では、夜間に医師が自宅へ診療に来てくれるファストドクターというものがある。府中市でもあったらと希望する。

《防災》

- ・ 南小学校の体育館が避難所に指定されているが、避難するには条件が悪い。夏はエアコンもなく、床張りで、市から支給されるのは毛布1枚。とても寝られる状況ではなく、避難した人は、二度と避難したくない、と言っている。
- ・ 教室にエアコンを設置するとのことだが、避難所に指定されている体育館にも早急に、是非設置してほしい。

一度に全てにエアコンを設置することは困難。計画的に進めていくので、「まずは教室」にご理解願いたい。

部長

避難所としての体育館については、扇風機では十分でなかったもので、スポットクーラーなどの設置は必要かと考えている。

市長

- ・ 府川は南小が指定の避難所だが、災害時に川を越えて避難することはできない。文化センターを避難所にしてもらえないかと総務課にはお願いしている。

地域によってはTAM、文化センターが重なることもあり、調整が必要。一時避難所ということであれば検討できる可能性はある。

避難者は指定の避難所のみならず、近隣の公民館という場合も考えられる。その場合、避難状況を連絡いただければ毛布など持っていく。

指定避難所にすると24時間1日で最低でも4人市職員が付いていなければならぬので、全ての公的施設を指定避難所にはできない。どうしても地域の方の協力が必要となる。

市長

《その他》

- ・ 南の丘の地域はイベントも多く行われ、環境もいいがアクセスが悪い。バスも通りにくい。せっかく遠方から来ていただけるのに道路環境がよくなればと思う。
- ・ 働き方改革の話題が出たが、CSなどもあり先生に負担がかなりかかっていると思う。そうしたなか、「地域に出てくれ」とは言いにくい。府中市では働き方改革の具体案はあるか。

案はある。残業は月45時間以内に減らすこと。子どもに向き合う時間を増やしたいと思っている。

CSなど立ち上げるときは確かに時間が必要で負担もあるが、地域がやってほしいことと、学校が教えたいことが一致してくれば負担も軽減される。

地域行事を教育課程に組み込むことができれば、地域に出て行くことも勤務として扱えるので振替えも可能になる。また、授業として取り組むので、どの先生でも実施することになり、持続性もできるし、スリムになる。

こうしたことから府中市における働き方改革に資するものと思っている。

課長

- ・ 他市の学校には印刷（コピー）業務などしてくれる先生が配置されていて、助かっていると聞くと、府中市では配置されないのか。

コピーする人だけでも、ということも一つの手段。スクールカウンセラーはどうするのか、スクールガードはどうか。事務専門が必要なのかなど、全てを揃えるのが理想だができないこともある。

子どもの貧困や虐待などをどうやって未然に防いでいくのかということも考え、来年度は何かしらの措置ができるよう考えている。

市長

- ・ 魅力あるまちづくりについて、学校、病院、公共交通、商業施設が揃っているのが理想だが、それにはある程度の人口が必要。そうしたなか、大学誘致の取組みには非常に期待している。

元々はヒロボーが持っていた無線航空機の技術を生かした大学誘致というものだった。現在では、いきなり大学ではなく、産業を起こし、そこから専門学校、大学へと発展させたいという思いを持っている。

市長

《まとめ》

楽しみながら、とはいえませんが、皆さんにはこうした輪を広げてもらえればと思う。人口減のなか、地域の力は大事である。行政も地域の活力を維持できるよう取り組んでいく。

市長